

## 1. 評価結果概要表

### 【評価実施概要】

事業所番号	4098400015		
法人名	有限会社 M&Y		
事業所名	グループホーム 銀杏の木		
所在地 (電話番号)	福岡県八女郡広川町大字長延630-2		(電話) 0943-32-8050
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成22年1月29日	評価確定日	平成22年3月5日

### 【情報提供票より】(平成22年1月15日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成18年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤12人, 非常勤3人, 常勤換算13.2人	

#### (2) 建物概要

建物構造	木造造り	
	1階建て	

#### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費	光熱水費 一日300円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

#### (4) 利用者の概要 (1月15日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	10 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	73 歳	最高	97 歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	柳病院	大石歯科医院
---------	-----	--------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「銀杏の木」は、長閑な田園風景と、果樹園や住宅が点在する豊かな自然環境の中にある。道路に面した広い駐車場は地域の方々も利用出来るようになっており、通りの程よい賑やかさと四季折々の彩りを楽しむ事が出来る。認知症ケアの経験豊かな代表・施設長・管理長の下、創立来のスタッフも多く、個性豊かな入居者の方々と同じ視点で日々の暮らしの過ごし方を考え、本人本位のサービスの提供に努めている。また戸外へ出る事が難しくなっても、農作業を眺めたり、外気浴が出来るようウッドデッキや中庭が工夫されている。わかりやすい言葉で表した理念を載せ、ホームの生活ぶりや「縁日の銀杏祭り」を案内する「銀杏便り」を地域に回覧したり、入居者の方々と共に散歩がてらのゴミ拾い等、積極的に地域に溶け込んでいるグループホームである。

### 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回指摘のあった「思いや意向の把握」について、家族の協力を求め、情報収集に努め、センター方式を活用しているところである。また避難訓練に運営推進会議の委員の方々の参加を得て、今後地域との連携体制を充実させていくよう働きかけている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価について、全職員に割り振りし、全員で取り組む働きかけを行なった。文言に書くことで改めて日々の業務について考察する機会となった。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、2ヶ月に1回定期開催されており、家族・地域代表・民生委員・町役場職員等の出席を得ている。出席者の積極的な発言を促し、活発・有益な会議となるよう取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	年に1回家族会を開催している。意見箱を設置し意見や苦情等を表していただく機会を設けている。家族が意見等を言い難いという事を理解し、気軽に表出できる関係づくりに努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	区会に加入しており、ホームの情報として広報誌「銀杏便り」を地域に回覧している。毎日の散歩時の、ゴミ拾い・空き缶拾いを継続する中で、地域の方々の挨拶や会話する機会も増え、収穫された野菜を頂く事もある。ホームとしての「銀杏祭り」へ地域からの参加者も増え、また小学校運動会を見学した際には、テント内に入居者のための席も用意されている。

2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	開設時に職員全員で作り上げた理念「自由・安らぎ・温もり」を基本とし、「その人らしい暮らし方ができる事を目標に共に歩んでいきます。」「安心して生活できる環境作りを行ないます。」「利用者の言葉・心を受け止め、常に感謝の気持ちを忘れず“ありがとう”が言える関係を築きます。」「地域の人たちとの出会い、ふれあいを大切にします。」と掲げている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	理念の共有、実践に向けて、目に付きやすい場所や職員ロッカーにも掲示している。広報誌「銀杏便り」には理念が明示されており、家族や地域に向けての共有にも取り組んでいる。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	ホームの情報として広報誌「銀杏便り」を地域に回覧している。毎日の散歩時の、ゴミ拾い・空き缶拾いを継続する中で、地域の方々との挨拶や会話する機会も増え、収穫された野菜を頂く事もある。ホームとしての「銀杏祭り」へ地域からの参加者も増え、また小学校運動会を見学した際には、テント内に入居者のための席も用意されている。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	自己評価・外部評価についての内部研修を実施し、効果的な活用に向けて取り組んでいる。自己評価作成は、全職員に割り振りし、全員で取り組む働きかけを行っている。文言に書くことで改めて日々の業務について考察する機会となった。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議は、2ヶ月に1回定期開催されており、家族・地域代表・民生委員・町役場職員等の出席を得ている。出席者の積極的な発言を促し、活発・有益な会議となるよう取り組んでいる。		運営推進会議を活用し、地域における福祉拠点としての活動が充実していくことを期待したい。地域住民・行政との協働によるネットワークづくりや、より積極的な情報発信・情報共有の場として、更なる充実に期待します。
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

## グループホーム 銀杏の木

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	八女地区のグループホーム部会研修等において、行政担当者との接点があり、また役場への出向いて相談する機会も増えてきており、困難事例についての相談や、地域情報の共有を行なっている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	権利擁護に関する制度について、外部より講師を招き研修を行い、全職員が受講している。現在制度を活用している方はいないが、今後の必要性を想定しながら、支援が行えるよう体制作りを行なっている。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	毎月入居者のスナップ写真が載っている広報誌と共に、日々の暮らしぶりを記した手書きの便りを家族に送付している。また面会時にも日々の暮らしの状況や健康状態、金銭管理について報告している。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	年に1回家族会を開催している。意見箱を設置し意見や苦情等を表していただく機会を設けている。家族が意見等を言い難いという事を理解し、気軽に表出できる関係づくりに努めている。		現状として意見や苦情が殆ど無い状況ではあるが、そのことを満足とせず、今後も関係づくりに取り組みながら、サービスの向上につなげていこうとする姿勢が伝わる。今後の新たなアプローチや工夫に期待したい。
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	2ユニット共、管理者、職員の異動や離職もなく、入居者の方々の馴染みの関係が保たれている。働きやすい職場環境づくりの成果であり、安定した状況にある。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員の募集、採用にあたっては、性別、年齢、経験の有無に関わらず、本人のやる気を重視している。個々人の発言の機会を大事にし意見を取り入れ、各人の能力が発揮できるよう配慮している。また職員のスキルアップのための外部研修への参加、資格取得に向けた支援が行われている。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

## グループホーム 銀杏の木

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	外部からの講師を招き、権利擁護や人権尊重についての研修会を行い、全職員が受講している。今後も内部研修を継続し、人権尊重への意識を更に高めていきたいと考えている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	八女地区のグループホーム研修会に参加し、研修内容について伝達講習を行なっている。OJTとして昼食時の空いた時間を利用し、その日の行動や関わりから得た情報によりミーティングを行なっている。管理者の意見・助言を通し、気付きや知識を深めるよう関わっている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	八女地区介護保険事業者連絡協議会の、グループホーム評議会に加入している。研修会に参加し交流の機会とし、情報交換等で得た内容を現場のサービスに取り入れ、サービスの向上を図っている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	家庭訪問、事前面接、お試し入居等を通し、ホームが安心出来る場所である事を実感していただき、徐々に馴染める環境、関係づくりに取り組んでいる。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	大切にしているぬいぐるみが電池が切れて動かなくなった時には、亡くなってしまったと悲しむ方に共感したり、動き始めた時には生き返ったとともに喜んだこともあり、入居者の方々の気持ちに寄り添っている。入居者の方々の生きる力や叡智から学ぶ事は多い。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			



## グループホーム 銀杏の木

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	家族の協力を得、情報収集を行なっている。センター方式を活用し、思いや意向を把握している。また日頃からどんな状況の時に、安心してリラックスされているかを観察している。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	実践可能な目標とわかりやすい文言で書かれている。短期目標を具体化し、個別支援を重視した内容になっている。今後はセンター方式のツールを充実させていく予定としている。		医師・看護師との連携により、具体的な観察項目や留意点を参考にして、介護計画作成に反映していく事にも期待したい。
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	短期目標が具体的な為、毎月のモニタリングが明確となっている。カンファレンスも行なわれ、入退院時にはその都度、定期的には3ヶ月毎に見直しがされている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	入居者・家族の要望に応じて、受診支援等、柔軟なサービスの提供に努めている。民生委員より、認知症ケアの相談を受けたり、広い駐車場を地域の方々に開放している。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	本人・家族の希望に応じて、かかりつけ医への受診を定期的に行なっている。看護師が勤務中は診察に同行している。また申し送りノートに診察後留意点等を明記している。入院が必要な場合、かかりつけ医より入院先の病院を紹介していただいている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

## グループホーム 銀杏の木

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	入居時にホームの重度化対応や終末期ケア指針を説明し、同意を得ている。これまでに看取りを行なった経験はないが、具体的な事例を出しながら、本人・家族・主治医等との話し合いを行なっている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	人生の先輩として敬いの気持ちを大事にし、個々に合わせた言葉掛けをしている。特に排泄時の声かけ等には配慮している。記録等、個人情報の管理は厳重にしている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	起床時間はそれぞれであり、その都度お茶を出し、食事の準備をしており、一人ひとりのペースを大切にしている。ホーム内でのスケジュールもあるが、入居者の方々が一番安心されている時間を大事にしている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	リビングと隣接してキッチンがあり、調理の段階から食事を楽しんで頂く環境にある。好きな場所で気の合う同士での食事となるよう配慮している。食材もホームの菜園での採れたての野菜や家族持参の野菜を使い、またそれを話題に話がはずんでいる。職員も同席して同じ献立の食事を摂っている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの希望やタイミングにあわせ、入浴時間や回数等、柔軟に支援している。入浴拒否の場合、その要因を職員全員で考察し、様々な角度からのアプローチを行なっている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

## グループホーム 銀杏の木

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	センター方式や家族からの聞き取り、日々の行動等から、興味を持たれる事や楽しみ事を見出している。新聞を折ってゴミ箱を作る・ぬり絵などの手作業が好きな方や、台所の片付けを役割にされている方、繰り返し唱歌童謡を唄われる方等、自由に過ごせるよう支援している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	天候や寒暖を考慮しながら、散歩を日課としており、体調や気分に合わせて散歩コースを判断している。おやつを持ってドライブに行ったり、診察の往復を楽しんでもらっている。ウッドデッキや中庭で過ごすことで、外気浴や日光浴ができ、戸外の雰囲気を楽しむことができる。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	玄関にセンサーを設置しており、日中は鍵はかけず出入り自由に行っている。2ユニットの玄関に挟まれて事務所があるので、職員は人の出入りに注意する事が出来、安全確認を行っている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	年2回、定期的に昼・夜を想定し防火訓練を行なっている。運営推進会議の委員の方々にも参加して頂き、地域の方の参加を広げていくよう会議で働きかけている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	業者により、栄養バランスに配慮されカロリー計算された食材を利用し、ホームで調理している。それぞれの方々にあわせた食事形態に対応し、食事摂取量や水分量を観察記録している。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

## グループホーム 銀杏の木

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	リビング兼食堂はウッドデッキに面し、大きくせり出したひさしにより、やわらかい明るさと清潔な空間となっている。ウッドデッキの向こうには広がる田園風景が眺められ、思い思いの場所でくつろぎながら、四季折々の彩りを楽しむことが出来る。廊下には表情豊かなスナップ写真が貼られている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	馴染みやすい木製の表札が各部屋に掛けられている。個人の好みや生活習慣、状態に合わせてベッド等のレイアウトがされ、仏壇や長年使ってきた鏡台や筆筒が置かれている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			